



チンロン・トリビア

チンロンあれこれ



ミャンマーで暮らす人々にとって、いかにチンロンが身近で、古くから大切に受け継がれてきたかが見えてくる。チンロンにまつわるトピックをご紹介します。

(1) 子どもも リフティング1万回！！

ミャンマーでも、チンロンの競技者になれるのは、本当に上手な一握りの人たち。競技者を目指すのなら、子どもでも1万回を超えるリフティングができればならないと言われています！



(2) 80歳の現役チンダマー！！

老若男女、誰にでも親しまれている国民的スポーツであるチンロンは、健康にも良いとされています。そのため、高齢になっても続けられている人が多く、中には80歳を越えても現役のプレイヤーであり続ける人もたくさんいます！



(3) 接待チンロン

チンロンをする人たちの中には社会的地位の高い人も大勢います。彼らがチンロン場の祭りでチンロンをする場合は、チンロン場の関係者たちがメンバーとなって一緒にプレイします。メンバーたちはサポートにまわり、お客さんをメンダー（チンロンの主役）に仕立てます。そのお客さんにボールを集め、納得のいくまで楽しく蹴ってもらうという、接待ゴルフならぬ接待チンロンが展開されるわけです。



(4) チンロン技の新作？！

チンロンの技は現在でも開発され続けています。ただし、それはすでにある様々な技を組み合わせることで作られています。チンロンの技が200種類以上もあると言われている理由の1つは、こうした技の組み合わせによって、それを別の技としてカウントしていくので、どんどん技の数が多くなっていくというわけです。

(5) 裸足で蹴る

チンロン選手たちの多くは、裸足でボールを蹴ります。足の指を使ってボールをコントロールすることができるからです。小さい頃からチンロンを始めた人たちは、裸足でボールを蹴ることを好みますが、大人になってからチンロンを始めた人たちはチンロン専用の靴を履くことが多いようです。ただし、得点試合ではチンロン靴の着用が義務づけられているので、どの選手も靴を履かなければいけません。



(了)